通快語録　臨時号　08／8

「市政懇談会」の意図は何か！

野坂市長、全校区を行脚

暑い夏、今年の暑さは平年に比べて暑い。しかし、この炎暑のなかに冷ややかな時の空間がある。それは、七月下旬からはじまった米子市の野坂市長が開催した公的の「市政懇談会」の場である。

現在（８／１０）までに、七会場５校区で開催。参加した市民は、一会場２５名から５９名弱。農村地帯を考慮して、この開催状況から野坂市政の信任の度合いを批評する市民も少なくない。

一方、会場の懇談会の中身にも関心が寄せられている。開催時間は、１９時３０分から始まり、女性の管理職が司会を務め、説明概要の１４頁、２６項目のものを野坂市長が４０分程度かけて順々と事務的な説明が続く。

しかし、この市長の説明も事実経過に時間を費やし、今後の市政の課題にたどり着かない始末とか。説明後は、市民の「生の意見」との交流があって閉会時間２０時３０分で終わる。これが大筋のシナリオである。

この場景に、参加の市民は「市民の市政への意見も少ない。市長の説明は、期待感より疲労感が溜まる」という声が届く。

時間が足りないほどの盛り沢山の説明概要に目を通すと、市長５年間の実績？例示が誇示されている。その内、行財政改革が４頁、８項目のスペースに割かれている。

具体的に、投資的経費の削減、補助金の抑制と民間委託、公共料金・手数料の値上げ、ごみの有料化、人件費の削減などが実績として記されている。しかし、これらは全国すべての自治体が国の交付金、補助金カットによって財政確保に対応する一般的行政手法で、野坂市長が特段に誇示する政治手法ではない。

それよりも、国、県に出向いてトップセールスを展開した財政確保の成果や、平成合併の行政効果、更に、内部のムダ使いの借地料削減などの取り組み、将来のまちづくりにむけての「ビジョン」などの説明責任を、市長は果たすべきではないだろうか。

そもそも、なぜこの時期に「市政懇談会」なる計画を思いついたのか。事実を確かめたら市長自らの指示に基づく計画だそうだ。はは～ん、来年４月は市長選挙。市長選を意識した公的行脚か、公私混同ではないかと選挙雀は叫ぶ。

しかし、市民もよくよく考えて見なくてはいけない。この「市政懇談会」は、年内の１１月まで続くという計画であるそうだ。

どこの自治体も、この時期は新年度の予算編成時期で残業も多く費やすほどである。他の首長は、国、県に出向いて新年度の予算や事業確保にエネルギーを燃やしている。わが米子市は、「市政懇談会」と居座っていて大丈夫か。

政治の最大の敵は、「無関心」との指摘もある。市政の沈滞に、無関心が拍車をかけていないのか。市政に、市民の監視の目を一層注がねばならない。